

YU-INFORMATION

No.115

山口大学広報誌

9

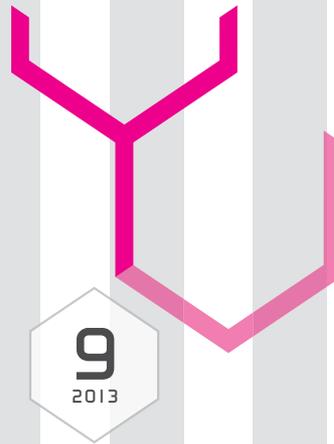
2013

特集

社会を動かす システム。

「建築設計情報のシステム化による
建築環境性能の向上」(工学部)

「社会システムとしての
市場経済のあり方」(経済学部)



cover story

[今月の表紙]

木々に囲まれた広場のベンチに集う学生たち。吉田キャンパスで共通教育課程を過ごす期間は、学部を超えたコミュニティで色々な人間関係に晒される貴重な時間です。専門教育課程になると、それぞれが吉田・小串・常盤の各キャンパスへ分かれ、数年後には現実社会との関わりを意識し始める。夏の名残で緑が鮮やかなこの季節、彼らはどんな未来を語っているのでしょうか。

contents

03

今月の特集 | #1 | 工学部

建築設計情報のシステム化による 建築環境性能の向上

山口大学大学院理工学研究科
感性デザイン工学専攻 樋山 恭助 准教授

05

今月の特集 | #2 | 経済学部

社会システムとしての市場経済のあり方

山口大学経済学部経済学科 塚田 広人 教授

07 山大的成果

#1 地域の着地型観光ツアー商品と
マーケティングプラン

山口大学経済学部経営学科
藤田 健 准教授

#2 東南アジア・東アジア地域で
活躍する技術系人材を育成

グローバル技術者養成センター・センター長
齊藤 俊 教授

09 What's New? YU-PRSS

10 EVENT SCHEDULE

Next Issue

SPECIAL
FEATURE

今月の特集

justice

living

ecology

environment

government

welfare

insu-
rance

building

特集
#1

工学部

Faculty of
Engineering



fellow-
ship

BIM

特集
#2

経済学部

Faculty of
Economics



equity

efficiency

energy

社会 を 動かす システム

Systems that move society

山口大学の根幹の学部として、人間の生活の基盤に深く関わりながら、その要求に対し変幻自在に応えていく柔軟な思考とカタチにする技術を継承する人材を育ててきた「経済学部」と「工学部」。絶えることなく動き続けている社会に対して、真理の探究だけではなく、世の中に役立つシステムを構築しています。今回は「社会」と「システム」、一見相反するテーマで経済学部と工学部が行っている研究活動の成果を紹介します。

建築設計情報のシステム化による 建築環境性能の向上

快適かつ省エネルギーな建築環境の
実現に取り組んでいる樋山恭助准教授に、
建築の環境性能向上につながる
ユニークなアイデアについて
語っていただきました。



Profile

山口大学大学院理工学研究科
感性デザイン工学専攻
テニュアトラック准教授

樋山 恭助 Hiyama Kyousuke

2003年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
2008年 東京大学工学系研究科建築学専攻、博士課程 中途退学
2009年 博士論文審査により博士号取得
株式会社日建設計、東京大学生産技術研究所助教を経て、
2013年4月、理工学研究科・情報・デザイン工学系学域に
テニュアトラック准教授として着任。
学会で多数の受賞歴があり、最近のものでは、空気調和・
衛生工学会の論文賞や、日本風工学会の出版賞があります。

テニュア
トラック
とは？

【山口大学のテニュアトラック制度について】

テニュアトラック制度とは、公正で透明性の高い選考により採用され
た若手研究者が、審査を経てより安定的な職を得る前に、任期付の
雇用形態で自立した研究者として経験を積むことができる仕組みを
いいます。山口大学では、文部科学省 平成23年度以降科学技術人
材育成費補助金「テニュアトラック普及・定着事業」の採択により、国
際公募による世界トップレベルの若手研究者を採用し育成すること
を目指し、さらなる研究者育成制度の充実に取り組んでいます。

増え続けている、生活における CO₂の排出量

私の専門分野は建築環境工学で、室内環境
といった目に見えないものを設計するために必
要な知識の探求や、快適な環境を創造するた
めの技術開発を行っています。例えば、空調設
備の配置により建築物内部の空気の流れがど
う変わるか、結果としてどのような室内環境が
形成されるかを、コンピュータ・シミュレーシ
ョンにより調べています。私たち建築環境工学に
携わるものは、環境問題の1つであるCO₂の増
加も抑えることを一つの大きな目標としていま
す。CO₂の排出元を大きく3つの分野に分けると、
1つは生産・製造現場から発生するもの(産

業部門)、次に物流や移動に関わるもの(運輸部門)、3つ目は我々の生活に関わるもの(民生部門)となります。ここ最近では、3分野の中で民生部門におけるCO₂排出が特に問題視されています。日本の製造業の環境対策は世界に誇る技術をもっており、産業部門では、過去からの生産量の増加と比較し、CO₂の発生量の増加は抑えられています。運輸部門では、ハイブリッド車やエンジンの高効率化による低燃費車の増加といったように、CO₂の排出抑制の技術が近年著しく発展しています。その一方で、民生の部分だけが伸びているんです。この部分からの発生を抑えることが、日本のCO₂の総排出量を抑えるキーポイントであり、この解決策を示すことが、私を含めた建築環境系の教員への課題だと考えています。

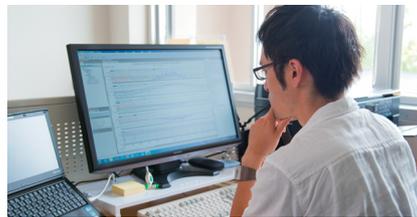
CO₂の発生しない環境的な建物

CO₂には建物を建設する時点で発生するものがあります。例えば、コンクリート自身はCO₂を発生しませんが、コンクリートを製造するときに化石燃料の使用に伴いCO₂が発生します。またこれとは別に、建設後に利用(運用)する際に、空調や照明を使用することで発生するものがあります。この建設や解体の際に排出されるCO₂と運用時に排出されるCO₂の割合を見ると、運用で発生するCO₂が多くなります。建物にもよりますが、およそ3分の2は運用に関わるものとなります。つまり運用の段階で、空調や照明の使用を最小限に抑えた建物を作ることが民生の部分のCO₂を減らすために重要となります。そういった背景があって、私たちは快適な生活を守りながらもエネルギー消費を抑え、CO₂の排出量が小さくなる環境的な建物を造っていかなければなりません。その目標達成のために生まれた研究テーマが、現在私が取り組みを始めた「BIM(Building Information Modeling)を用いた建築設計情報のゲノム化と情報遺伝によるフロントローディングの実現」です。

建築情報のゲノム化による設計情報の遺伝

世の中では、空調機器の高効率化や、自然換気等の自然エネルギー利用により空調の使用を極力抑えた設計に関して、多くの研究が行われており技術は日々進歩しています。ただそれらの技術が、実際の建物でうまく機能している

かという、難しいところです。例えば、自動車におけるハイブリッド技術の普及は、CO₂の排出量低減に大きく貢献しています。しかし建築の場合は、同じものを大量に作る製造業とは異なり、よく言われる一品生産のオーダーメイドなので、たとえCO₂の排出量が小さい良い建築が出来ても、それと同じものをコピーして建てる訳にはいきません。場所が違えばその土地環境も気候も違い、建築の形も法規制の問題も変わってくるし、出せるコストも当然変わっていくからです。しかし私は、良い物を作ったらどうかしてコピーできないか、そしてそのコピーを元に新しいもっと良い物を作っていけないだろうかと考えています。それをどういう風にも実現しようかということが、今行っている研究です。



建築物はとてもコストが高く、一品物であるがゆえに施主も設計者にも作りたいものや思想があって、良い物でもコピーで作りたいとは思わないことも、このコピーが普及しない一つの要因です。そこで出てくるのが「建築情報のゲノム化」。建築というものは色々な要素の組合せで作られています。建築の一個の単体があれば、まず各階に分けられます。各階は各部屋に分解できます。その部屋は壁に分解でき、その壁は中の断熱材などに分解できます。そうして分解した要素を遺伝子のようにコピーしてあげて次のものに使ってあげたらどうだろうというわけです。

壁の断熱材の厚さを例にとってみると、今回は10cm必要だけどコストがないので5cmにするというように、建築する度に厚みだけでも色々検討をしているんです。しかし同じ様な建物で事前に検討していれば、一回検討している段階で選択肢は取捨選択され、あり得ない選択肢は消えているはずなんです。それにも関わらず、一品生産だからといって、白紙の状態から設計を始め、以前に検討したものと同じ検討をするのは無駄な事です。私は、以前の設計における検討結果を次の設計に引き継ぐことができるのではと考えています。例えば、動物の形はそれぞれの生活環境において理に適っており、それぞれ進化を遂げ、その進化の情報は遺伝

として子孫に伝えられていきます。同様に、建築においてもその土地の環境やコスト等の条件に合わせた最適のカチがあるはずなんです。例えば、風の向きはその土地で違います。どちらに向けて窓を付けたら良いかは、周りの建物の情報を分析し、それらの建物がどうしてその向きに決めたのかの経緯が分かれば、その情報は引き継ぐ事が出来ます。そうすれば、設計者が限られた時間と想像の範囲の中で提案する候補を比べている現在の設計より、より多くの候補からその土地と条件に適した建築を選んだと言えると思っています。このように、世の中にシステムとして建築設計情報が引き継がれていけば、建築の環境性能が上がっていくでしょう。私はそんな事ができるシステムを考え始めています。

新しい建築設計: BIMの活用

今までの設計は、施主の頭の中にある三次元のイメージを二次元の設計図に翻訳し、施工業者がその設計図を解釈して三次元のリアルな建築を構築するものでした。この翻訳というプロセスにおいて情報が抜け落ちたり間違っただけで伝わると、出来上がった建築が施主のイメージと違ったものになり、その調整がコストと生産性を下げることになります。それならば、最初から三次元のままコンピュータ上にバーチャルな建築を造り、施主と施工業者を含めた設計に関わる全員がその仮想建築を基に会話をすれば翻訳ミスはなくなります。「BIM」はその三次元の形だけではなく、それは壁なのか、材質は何か、どんな構造なのかといった情報も持たせています。設計が終われば、そこにはバーチャルの建物が出来ているんです。

ICTの導入の遅れも起因し、現状の建設業の生産性は生産性の向上が著しい製造業の半分程度とも言われています。生産性を上げていくには建築業における高度なICTの導入が必要です。これまでの建設業の成長を支えてきた団塊の世代が大量に去りメンバーが一新される今、私の研究が実を結び、さらに建築の効率を上げることを可能とするICTを活用した建設技術構築を支えることのできる人材がこの山口大学から育って欲しいと願っています。



社会システムとしての市場経済のあり方を研究しておられる経済学科の塚田広人教授に、社会の仕組みについて語っていただきました。

人間が社会生活をする上で、 必要不可欠なルール

経済学は人間の生き方を考えるものです。人間が社会を作る、そこで協力して生産をし、正しく分ける。この一番大切な社会の仕組みを考えましょう。

人間は社会を作ったら、して良い事としてはいけない事を必ずルールとして最初に判っていないと協力関係ができません。それを決めるのは、「自由」の問題です。私たちは原始時代から現在まで、いろんな社会を作ってきました。現在の社会は、市民が全員平等な立場で作る社会という意味で、私は「市民社会」と呼んでいます。ではその前までの段階はというと、日本だったら江戸時代までの封建社会です。この社会特徴は身分で、身分制の下でのみ

協力ができる。ルールの中ではないいけない事の中に、「身分は変えてはいけない」という一文があるはず。これが市民社会と封建社会の一番大きな違いですね。しかし市民社会では全員が同じ発言権を持っている。だから、現在の私たちが生きているこの社会は市民社会であって、この自由に関する特徴というのは「平等な自由」です。私たちは全員が平等な地位にあるので、誰かに理由もなく自分に従えと言うことはできない時代に生きている訳です。ただもちろん法律によって、あなたはこれをしてはいけない、これは良いといろいろ決められます。そして、全員が平等な自由の下で、全員が話し合っ決めて、じゃあ守ろうということで自由を制約します。合意の上での制約です。その根本は、いつでもそれは変えられますが、基本的には全員が平等な自由をもつということになります。

「自由の範囲」と「富の分配」

人間は一人でも生きていけます。ただどうい

うわけか必ず複数で協力して何かを作りながら生きている。なんで協力するかというと、一人では一個しかできないものが二人では三個できるからです。協力することで社会ができる。社会の根本原理はこれです。ただその時に、社会のために決めておかなければならないルールがあります。

一つ目のルールは「自由の範囲」。二人が協力する時、何をして良いか、いけないかを明確にすることです。してはいけない事ははっきりさせれば、残りはして良い事ですから、どんどん協力すれば良いことになります。このして良い事の中で、二人が行きつくのは様々な形の協力のアイデアです。そうすればもっとたくさんの富が作れます。

今まで一人ひとりが別々に一個ずつ作っていたものが、協力することで三個できた。さあこれをどうやって分けたら良いのだろうか。これがルール2「富の分配」の問題です。富を分ける原則的な根本的なルールは何か？これが私の「社会システムとしての市場経済」という研究の中心テーマなんです。

社会システムとしての 市場経済の あり方



効率性・公正性・慈恵性の観点から、現代社会のあり方を考える必要があります。

Profile

山口大学経済学部 経済学科 教授

塚田 広人 Tsukada Hiroto

1976年 一橋大学、経済学部、経済学科卒業
学位：経済学修士（一橋大学経済学研究科）、
社会学博士（Copenhagen University）
専門分野：経済政策
山口大学経済学部助教授などを経て、1994年に
山口大学経済学部教授、現在に至る。

現代社会という家の構造

現在の世界で日本と同じ様な政治・経済制度が出来ている国の社会構造を、私は3階建ての家に置き換えて考えています。

[3F] まず人は生まれた後、教育という階段を上って3階に着きます。ここは生産・雇用の場です。また政府もあり、仕事をします。生産・雇用で発生した富は分配されます。政府も仕事をするので、何かを生産します。これを国民に渡し、税金を貰います。外国とは輸出入でやり取りがあります。

[2F] 2階部分は、保険の部分です。税金・保険料を払って給付を受けます。払った分が戻るところです。基本的に雇用、医療、介護、年金があります。

[1F] 一番下は扶助の部分です。働けない人を助けます。税金を払った人だけでなく、払っていない人も助けます。生活保護を受けることができます。

社会を支える3つの大切な柱

ここで社会システムの大事なキーワードが出てきます。一つ目は「効率性」です。会社の仕事も政府の仕事も、無駄なくやりましょう。作りすぎる必要は無いけれど、作るのだったら一番効率的に短い時間で仕事をして、たくさん作りましょうね、ということです。我々は社会の中で効率性を高めることをいつも目指さなくてはならない。効率性が高ければ、自由な時間は増えるし、長い時間働きたい人は長く働くほど富が増えます。良いバランスはそこで見つけられよいのです。目標とする数値に対して効率的に働きなさいということです。

もう一つは「公正性」です。社会で働いている人達の間で富をどう分けるかということです。会社で考えると社長の利潤、社員の賃金、会社の内部留

保がバランスよく分配されていますか？効率性は政府にもあります。私たちは税金を払います。政府で働いている人も当然税金を払います。こうして集めた税金を効率よく使っているかということが問題になります。政府の使い方はもちろん、政府の外郭団体や特殊法人がお金を使いすぎてはいないかという事もそうです。政府に関しては国民やマスコミが指摘すれば言うことを聞かざるを得ないでしょう。効率的に作ること、作ったものを公正に分けること。これを考えることが大切です。

社会システムの最後のキーワードは「慈恵性」です。これが必要になるのは3階建ての家の1階部分。そしてそこで問題になるのは「慈恵性」と言われる人間の性質の部分です。私たちは誰でも、まったくの見ず知らずの人でも目の前で倒れていれば助けますね。でもそれを社会の仕組みの中で助けようとすると、なかなか難しい。なぜなら複雑化した社会では本当にその人が困っているのかは分かりにくいから。そうすると我々は政府を信用してお金を預けて「助けてあげてください」となります。しかし、それも難しいことではあります。その人がどれだけ困っているのか正確に判断することは政府でも難しい。そんな時に、マスコミが生活保護を受けている人の中にはこんな酷い人がいますと報道されればもう税金を払いたくないと思うでしょう。本当に困っている人がいたら助けてあげたいけど、そうではなさそうだと思ってしまう。私たちが、こういう場合でのお金の使い方について正確にその判断をしないと、本来持っている自分たちの性質を使えなくなってしまう。あるいは性質と反した事を政府にしてもらうことになってしまい、後悔する事になります。心の中で、自分は困っている人を自分の慈恵性に照らして助けてあげて



ゼミ生による執筆中の論文の報告会の様子

いるのか常に反省するべきですが、惑わされたり、あまり難しく考えなければ、慈恵性というのは私は達は政府に託して基本的にはやっているんです。

福祉国家の強化の必要性

これら3つの柱「効率性、公正性、慈恵性」が市場経済社会の中でしっかり機能しうののかを考えると、結論として、社長と社員との富の分配を社会的規制のルールによって公正に分配する事、また市場経済の下で弱くなりがちな慈恵性を社会の取り組みで維持する事が重要です。そして、この規制、取り組みで造られる福祉国家という社会のあり方をきちんとすることで、市場経済を制御していく事がとても大切なことです。現在、経済のグローバル化でこれがどのような影響を受けているのかに注目しています。

効率的に作り、公正に分けて、かつそれでも生活ができない人には慈恵性に依じて無償で助けるという循環が巧くいっている社会がよい社会でしょうね。そこで実現する富の分配を見れば、「社会って何？」という問いに一つの答えが出てくることでしょう。

Student's Voice

[ゼミに参加した学生の声]



山口大学大学院
経済学研究科 1年
山根 博文 さん

国際交流もでき、ゼミ仲間からは若いエネルギーを貰っています！

日本の国及び地方の抱える様々な問題に危機感を感じており、大学院に入りました。塚田先生の授業は解りやすく、ゼミのメンバーは中国からの学生もいるので国際交流もでき、先日はゼミ生と韓国研修旅行に参加するなど、みんなからいい刺激を受けています。



山口大学大学院
東アジア研究科 2年
趙 豊 さん

社会の効率性、公正性、慈恵性に関心がある方はおすすめです。

社会システムのあり方を理解するため、そしてマクロ経済の研究手法と見方を磨くために、塚田ゼミに参加しています。ゼミで得るものは多く、市場経済のあり方、人間の生き方、人間と自然の関係、自分の頭で考えることを身につけることができました。

山口大学では様々な形で、最先端の研究成果を社会に還元しています。
ここではそれらの成果の一部をご紹介します。

Achievements #1 経済学部

地域の着地型観光ツアー商品と
マーケティングプラン

商学分野の流通論・マーケティング論を専門に研究している山口大学経済学部の藤田 健准教授。今までの視点を変えた商品開発を行う教育をスタートさせ、大学間製品開発プロジェクトでは、藤田ゼミの開発した製品が商品化されるなど確実に成果を出しています。今回は地域の着地型観光ツアー商品とマーケティングプランをセットで開発する教育プログラム、地域観光マーケティング演習について語っていただきました。

現在私のゼミでは、自分の研究テーマと経営学の知識を組み込んだ、地域マーケティング演習を行っています。その中で開発している着地型観光ツアーとは、観光目的地に着いた観光客が、その土地の観光資源・歴史文化などに触れるための現地発ツアーです。

2010年度は山口市観光課からの受託研究で、着地型観光マーケティングの教育プログラムの開発、ツアー開発を行い「女子力UP☆大作戦」として商品化され、市内の観光地や山口国体で配布。2012年度は「ほっかぼかツアー」を山口市観光情報誌『彩都山口』Vol.5に掲載され、ボーイスカウト日本ジャンボリーなどでも配布されました。今年度は美祢市の観光資源を利用した観光ツアーの開発を提案することにしました。成果報告会には美祢市の担当者をお招きし、2年生の3チームが参加者にむけてプレゼンを行いました。本来なら約4カ月かける開発期間を今回は6週間という短期間で実施。美祢市の歴史・文化・観光資源の調査と現場でのヒアリングを行い、開発プロセスを通して3チームがそれぞれ立案したテーマに沿ったツアー商品のアイデアとマーケティングプランを提案しました。

このプログラムは大手旅行代理店を儲けさせるものではありません。学生が地域貢献を通して社会人としての



2013年度地域観光マーケティング演習@美祢市
成果報告会でのゼミ生によるプレゼンテーションの様子

考え方やマナーを学び、コミュニケーション能力を高めながらトレーニングをしていく場になっています。学生たちは約4カ月かけたコンセプトワークの中で、誰のためにやるのか、どうマーケティングの仕組みを作るのか、そのために自分達のチームをどのように動かすのかなど、マーケティングとマネジメントの基本的な発想をきっちりと身に付けていきます。プログラムが終わると、ツアーの開発について反省会を行います。自分たちの行動を振り返り、どうすればマネジメントがもっと良くなったのか、どうすればマーケティングがうまくできたのかを話し合います。この地域観光マーケティング演習の効果は意外と大きく、この過程を過ぎた学生は、次の学期が始まるころには社会人と話しているかのように思えるほどガリリと変わります。これは私の中では教育面での大きな成果ですね。

私はチームを組ませるとき、異質な人間を組合せませす。論理的な発想が出来る者、突飛な発想をする者、ほんわかして人間関係を取り持ってくれる者、そういう異なった人格の者をうまく配置しないと組織は動かないんです。そうすることで演習期間中お互いに切磋琢磨しあい、以前なら排除していたであろう相手とコミュニケーションを取り、他者を理解する事とは何だろうということを考えるようになるのです。これまでに卒業していった学生はそうやって成長してきました。この演習で鍛えられた学生達は、社会での実践力をしっかり身につけて巣立っていくことでしょう。

山口市の魅力を発信する『彩都山口』vol.5に掲載された、2012年度ツアー商品「めざせ!ほっかぼか女ツアー」



Profile

山口大学経済学部経営学科 大学院担当准教授
藤田 健 Fujita Takeshi

1995年 大阪経済大学経営学部経営情報学科卒業
1998年 神戸大学大学院経営学研究科博士後期課程中退、修士(商学)
同年より山口大学助手。その後、講師、助教授(准教授への職名変更)を経て、現在、同大学院担当准教授。
著書:『新しい公共・非営利のマーケティング 関係性にもとづくマネジメント』(編著)、『観光のマーケティング・マネジメント』(編著)

山口大学経済学部の詳細はここでCHECK! >>
<http://www.econo.yamaguchi-u.ac.jp/>



At Chulalongkorn University, Thailand

← 昨年3月に行われた、タイ王国のチュラロンコン大学での研修風景

Achievements #2 工学部

東南アジア・東アジア地域で活躍する技術系人材を育成

文 齊藤 俊 教授
グローバル技術者養成センターセンター長

全国で大学として認められているその数は、総務省統計局・政策統括官(統計基準担当)・統計研修所の統計によると780校を数えますが、その中の42校が文部科学省募集事業「平成24年度グローバル人材育成推進事業」に採択されました。今後の日本を担う「グローバル人材育成」は急務であり、大学は「グローバル人材を育成する教育の提供とグローバル人材の輩出」を余儀なくされているという状況にあります。山口大学工学部が提案した「東南アジア・東アジアで活躍する技術系グローバル人材の育成事業」は、幸いにもその42校の中に選ばれ、昨年11月から「グローバル技術者を養成する教育の提供」を可能とする組織作りを開始しました。

グローバル技術者養成センターの取組み

グローバル技術者養成センターを工学部に設置し、国際化教育を組織的に実施するための教職員の雇用、海外留学プログラムの開発、国際的コミュニケーション能力向上を目指した講義及び教材の開発、情報端末を利用した自己学習システムの開発、本プロジェクト提供科目の単位化のための規則整備、情報発信・情報提供を目的としたURLの開設などに取り組んでいます。学生を海外に派遣し語学研修、技術研修を行う海外研修プログラムの開発に昨年度は注力し、アジア諸国をメインに全世界で66校の交流先大学を開拓しました。その結果、10研修プログラムを実施できる運びとなり、62名(技術研修35名、語学研修27名)の学生を短期海外派遣しています。

ページ上部の写真はタイのチュラロンコン大学での研修の様子です。活気に満ち溢れる東南アジアの空気を味わうと同時に、言葉の壁に臆することなくコミュニケーションを取ろうとする同世代のアジアの学生からの有益な刺激を受け、学生達は直実に成長を遂げています。

本年度は、昨年度開発した海外研修プログラムを加えて、新たに10語学研究プログラム、及び23技術研修プログラムの計33プログラムを用意し、170名の学生が海外研修に参加する予定で計画を進めています。この夏休みには、1年生8名を含む67名(技術研修42名、語学研修25名)の学生が海外で研修を行いました。



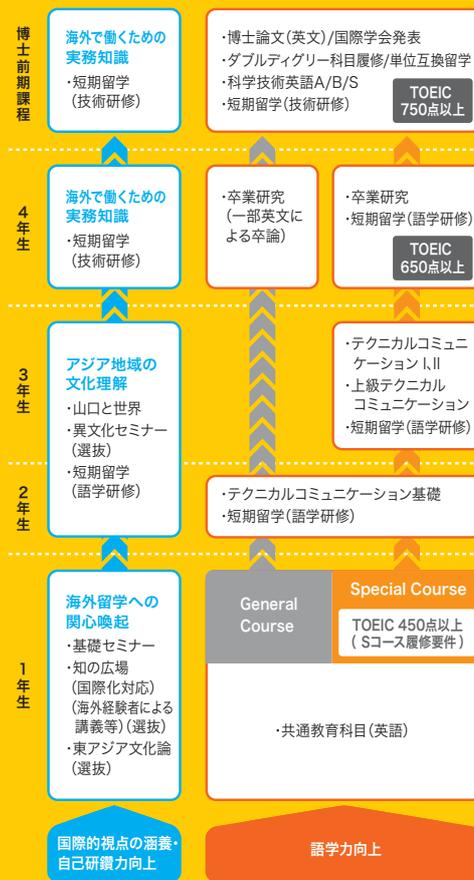
- イギリス..... シェフィールド大学、ロンドン大学(UCL)、ブリストル大学
- スペイン..... サラゴサ大学
- ポルトガル..... 新リスボン大学
- ニュージーランド..... オークランド工科大学
- 韓国..... 西江大学、KAIST
- タイ王国..... カセサート大学、チュラロンコン王立大学、アジア工科大学
- マレーシア..... マレーシア工科大学
- インドネシア..... ウダヤナ大学、ジョグジャカルタ州立大学、Polytechnic of Bengkalis
- 台湾..... 国立台湾中央大学
- 東ティモール..... 東ティモール国立大学

グローバル人材育成事業の特徴

本事業では、新たな年次プログラム(図1)と語学教育プログラムにより、これまでの工学部での教育を強化し、「1. 専門分野の基礎知識・技能」、「2. 問題発見能力」、「3. コミュニケーション能力」、「4. チームワーク能力」、「5. 語学力」、「6. 国際的視点」、「7. 自己研鑽」、「8. 日本人・山口大生としての自覚と誇り」の涵養により、学部卒業時には「異文化を理解し、海外で働く自覚を持つ人材」、大学院博士前期課程修了時には、「国際技術者としての基礎力と海外企業で働く自信を持つ人材」育成を目指しています。実践的な英語力を含む外国人とのコミュニケーションを実現する能力を有し、海外の文化や価値観を尊重しながら、日本の歴史や伝統を踏まえた公益や国益の担い手になり得る若者の輩出を可能とする組織づくりに取り組み、それを山口大学全体に展開する活動も同時に実践します。

グローバル人材を育成する教育カリキュラム

図1: [年次別プログラム]



グローバル人材育成推進事業の詳細はここでCHECK! >>
<http://www.global.eng.yamaguchi-u.ac.jp/>

What's New? YU-PRSS

《 学生スタッフYU-PRSSがお届けする、山大の最新情報 》

YU-PRSSとは?

ユープラス

広報誌「YU-INFORMATION」や、
山大のWEBサイト内の「キャンパス
ライフ」ページなどの制作に携わる、
山口大学広報学生スタッフです。

YU-PRSS(*Yamaguchi University Public
Relations Student Staff)の略)は、「山大学生のあなた
(YOU)にも、そうでないあなた(YOU)にもプラスになる
情報を届けたい」との想いを込めてつけられました。
現在17名のメンバーで広報活動を行っています。



YU-PRSSメンバー

入江 貴博	石井 沙希	原殿 花織
長岡 奈緒子	中富 真奈	武田 一志
前田 梨乃	城村 ひとみ	小形 晋樹
吉岡 優一	長岡 真大	中山 拳太郎
河島 あかね	倉増 沙和	原田 海沙
満口 明音	田里 翔太	

感想、取材依頼など、YU-PRSSに
お気軽にメールしてください!

今月号についての感想や、今後こういった特集はどう
だろうといったアイデア、こんな人を取材してほしい
といったご要望も受け付けています。また、「私たちが
取材してほしい」といったサークルやグループも大歓迎
です。たくさんのメールをお待ちしています。

E-MAIL: campus@yamaguchi-u.ac.jp

「キャンパスライフ」はコチラをCHECK! >>
[http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/
~campus/campus_life%20_web/](http://ds22.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~campus/campus_life%20_web/)

01 創造設計工学夏の学校 (SPIED 2013)

中国の3大学、韓国の3大学および
本学学生の総勢48人が参加する
「創造設計工学夏の学校(SPIED
2013)」が、8月19日(月)~28日
(水)まで、本学工学部を会場に
開催されました。

このプログラムは、グローバル人材
育成教育の一環として企画され
たもので、参加学生に、互いに協力
しながら与えられたテーマに沿っ
た創造設計を行う過程を経験
させることを通じ、国際的な場での
活動の実際を理解させ、自身の
継続的能力向上への意識付けを
与えることを目的としています。



02 纏織理事が二冊の 共著を出版

纏織理事がこの度二冊の共著を出版。一冊目は、2011年
9月14日、「総力戦としての太平洋戦争」をテーマに開催
された防衛省防衛研究所主催の「平成23年度戦争史研究
国際フォーラム」での纏織理事の報告「総力戦と日本の対応
—日本型総力体制構築の実際と限界—」を掲載した、『総力
戦の時代』(2013年6月刊)です。

二冊目は元ウズベキスタン大使などを歴任され、現在では戦後史研究に
一石を投じられた『戦後史の正体』で注目されている孫崎享氏が編集責
任者となって出版された、『終わらない占領』(2013年6月刊)です。



03 人命救助に貢献した 学生に学長表彰



平成25年7月1日(月)、共同獣医学部教員
研究室にて倒れた教員に対し、救急隊の到
着まで心臓マッサージやAEDを用いて救命
処置を行い、人命救助に貢献したとして連合
獣医学研究科3年野口慧多さんと2年寺田
豊さんが学長表彰を受けました。

YU-INFORMATION

ワイユーインフォメーション
山口大学広報誌 Vol.115

山口大学総務部広報課

〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1
TEL:083-933-5007 FAX:083-933-5013
E-MAIL: sh011@yamaguchi-u.ac.jp
URL: <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

今月の
NEWS &
TOPICS

04 おもプロ報告書完成

山口大学おもしろプロジェクト'12の最終報告書が完成しました。2012年度に採択された11のプロジェクトの成果がとりまとめられた報告書です。以下のサイトで閲覧可能です。
<http://ssct.oue.yamaguchi-u.ac.jp/omoprohp/report/2012fin.html>

05 平成25年度日本エネルギー学会論文賞を受賞



理工学研究科機械工学専攻の田之上健一郎准教授が、木質バイオマスのガス化装置内で同時に生じる移動現象(不均一反応、熱移動)について実験および数値計算によって検討した「木質バイオマス充填層の熱分解中における

熱伝導およびガス生成」で、平成25年度日本エネルギー学会論文賞を受賞し、8月5日の第22回日本エネルギー学会大会の論文賞講演および表彰式にて表彰されました。

06 大学院医学系研究科医化学分野の藤本充章講師と中井彰教授がFEBS Journal Top-Cited Paper Awardを受賞

このたび、大学院医学系研究科医化学分野の藤本充章講師と中井彰教授がFEBS Journal(2010年10月)に発表した総説に対して、FEBS Journal Top-Cited Paper Awardを受賞しました。この賞は、欧州科学雑誌FEBS Journalに発表された論文の中から、発表から2年間の引用数の極めて高い論文に編集局から授与されるものです。



07 ヤマミィ オフィシャルサイト開設!



9月5日(木)、ヤマミィのオフィシャルサイトが開設されました。ヤマミィのスケジュールや活動の様子が写真で確認できるほか、壁紙等の画像のダウンロードも可能です。今後も定期的に更新していく予定です。また、ヤマミィは、ゆるキャラグランプリ2013にエントリーしました。投票期間は9月17日から11月8日までです。

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/_2952.html

EVENTSCHEDULE
「イベントスケジュール」

10 OCTOBER

24 吉田キャンパス・
秋季クリーン作戦
木

11 NOVEMBER

02 土 ~ 03 日
大学祭(姫山祭)
吉田キャンパス

09 土 ~ 10 日
大学祭(医学祭)
小串キャンパス

12 ヤマミィ
生誕1周年
火

16 大学祭(常盤祭)
常盤キャンパス
土

23 第1回山口大学
ホームカミングデー
第60回学長杯
争奪駅伝大会
吉田キャンパス
土

30 山口大学
創基200周年記念
第3回基幹シンポジウム
常盤キャンパス
土

Next Issue

次号予告

人を知る。
人を育てる。

“ヒト”として生まれ“人間”として生きていく。
それを支え、向き合う、医学部と教育学部の
成果を紹介します。お楽しみに!

編集発行/山口大学広報委員会

西田輝夫(副学長、総務企画担当)/坪郷英彦(人文学部)/菊屋吉生(教育学部)/平中貴一(経済学部)/川村喜一郎(理学部)/大和田祐二(医学部)/山本節夫(工学部)/竹松葉子(農学部)/度会雅久(共同獣医学部)/向山尚志(技術経営研究科)/何皖毅(大学教育機構)/平井信義(大学研究推進機構)/小河原加久治(大学情報機構)/片山信一(総務部広報課)

企画・編集・撮影・デザイン/株式会社 無限

「志」つなぎ伝える
二百年



2
0
1
5
年
に
山
口
大
学
は
創
基
2
0
0
周
年
を
迎
え
ま
す

山口大学は、長州藩士・上田鳳陽により創設された「山口講堂」をルーツとし、明治・大正期の学制を経て、1949年に地域における高等教育および学問研究の中核たる新制大学として創設されました。来る2015年(平成27年)には創基200周年を迎えます。山口大学は、地域に根ざした大学として、さらなる充実と飛躍を期し、次なる100年をより有意義なものにするための記念事業を計画しています。

2013年度

創基200周年NEWS

山口大学では、200年の歴史を多くの皆様に伝えるための講演会、シンポジウム、また、地域のニーズに合わせた様々な行事、学生の企画によるイベント等の各種記念事業などを実施します。ここでは、それら創基200周年に関連した最新ニュースを紹介していきます。



基幹シンポジウム/ホームカミングデー開催

山口大学創基200周年に向けた準備が着々と進んでいます。11月には、大きな行事が2つ予定されています。

第1回山口大学ホームカミングデー

日時:平成25年11月23日(土)
14:00~17:30
会場:山口大学吉田キャンパス

山口大学創基200周年記念 第3回基幹シンポジウム

日時:平成25年11月30日(土) 13:00~
会場:山口大学常盤キャンパス(工学部D講義棟)



山口大学創基200周年を盛大に迎えるために、多くの学生が集まり、「ヤマミイアンバサダー」が結成されました。今後も、学生によるいろいろな企画で、学内の創基200周年の気運を高めていきます。

Back to the Past バック・トゥ・ザ・パスト

山口大学の過去と現在の姿を比較しながら、200年の歴史を振り返ります。



1946

第3回

[昭和21年] 宇部工業専門学校

昭和21年、山口大学工学部の母体となった宇部工業専門学校の様子。校舎には戦中に塗られたペンキによるカモフラージュが屋根や壁に残っていて、少し禍々しさを感じさせています。周辺に何も無いのは、戦火で焼かれたというより、元々何も無い丘の上に建てられたためです。



2013

創基200周年の詳細はここでCHECK! >> <http://www.yamaguchi200.jp/>